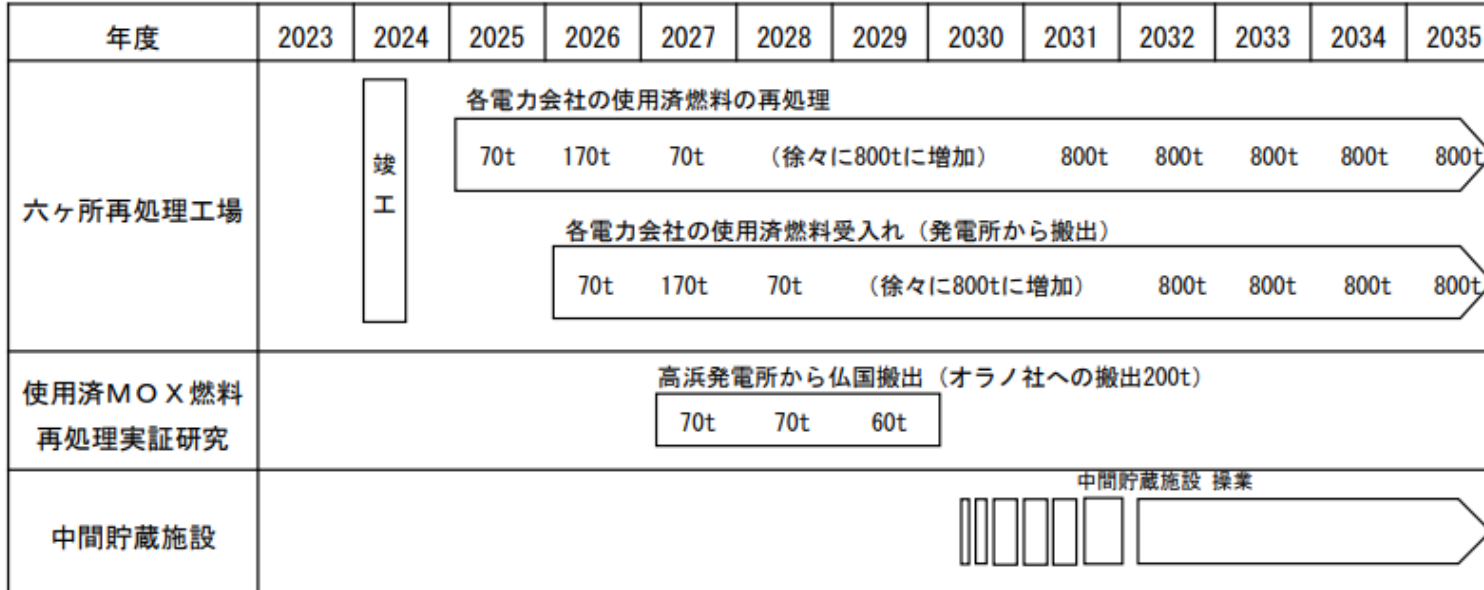


別紙

# 使用済燃料対策ロードマップ<sup>o</sup>

2023年10月10日  
関西電力株式会社

- ・六ヶ所再処理工場の2024年度上期の出来るだけ早い時期の竣工に向け、関西電力を中心に、審査・検査に対応する人材を更に確保
- ・2025年度から再処理開始、2026年度から使用済燃料受入れ開始。再処理工場への関西電力の使用済燃料の搬出にあたり、必要量を確保し搬出するよう取り組む
- ・使用済MOX燃料の再処理実証研究のため、2027年度から2029年度にかけて高浜発電所の使用済燃料約200tを仏国オラノ社に搬出さらに実証研究の進捗・状況に応じ、仏国への搬出量の積み増しを検討
- ・中間貯蔵施設の他地点を確保し、2030年頃に操業開始
- ・中間貯蔵施設の操業を開始する2030年頃までの間、六ヶ所再処理工場および仏国オラノ社への搬出により、使用済燃料の貯蔵量の増加を抑制
- ・あらゆる可能性を組み合わせる必要な搬出容量を確保し、着実に発電所が継続して運転できるよう、環境を整備する
- ・本ロードマップの実効性を担保するため、今後、原則として貯蔵容量を増加させない
- ・使用済燃料の中間貯蔵施設へのより円滑な搬出、さらに搬出までの間、電源を使用せずに安全性の高い方式で保管できるよう、発電所からの将来の搬出に備えて発電所構内に乾式貯蔵施設の設置を検討



次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討状況について

## 1. 若い世代に選ばれる「地域スタイル」の構築

- (主な取組みの例) ① 地域への愛着を育む教育 ② アンコンシャス・バイアスへの理解促進  
③ ウェルビーイングの向上 ④ 若者参加のまちづくり

## 2. 「働きがい+働きやすさ」の魅力ある仕事の創出

- ① 若い世代の経済自立・安定所得向上につながる経営改革支援  
② 女性が望む雇用づくり・L字カーブの解消・男性育休の拡大  
③ 時間や勤務地にとらわれない多様な働き方の促進

## 3. 結婚・出産・子育ての「希望が叶う社会」の実現

- ① 出会いの機会拡大・恋愛への後押し  
② 結婚・子育てへのポジティブなイメージづくり  
③ ふく育さん・ふく育タクシー・家事の外部化促進など地域での子育て支援

## 4. 「県内進学・就職」「U・Iターン」の徹底応援

- ① 学生時代からの継続的なつながりづくり  
② 地元進学・地元就職の促進  
③ 体験を通じたU・Iターンの促進

## 教育に関する大綱(案) 概要

## 基本的な施策の方向性

## 1 自らと福井の将来につなげる学びの推進

## ○確かな学力と探究力の育成

- ・少人数指導、最先端のデジタル技術等を活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実
- ・「探究学習」の拡充、サイエンス教育等「得意を見つけ伸ばす教育」の推進

## ○豊かな心と健やかな体の育成

- ・道徳教育や特別活動、体験学習、地域貢献活動、読書活動の充実
- ・自然体験等を通じてたくましさや社会性を育む「アウトドア教育」の推進
- ・運動習慣の定着、健康教育・食育の推進による健やかな体の育成

## ○多様な人々と協働する力の育成

- ・相手に共感し、考えをわかりやすく伝える「プレゼンテーション教育」の充実
- ・国際社会で活躍するための語学向上、「グローバル教育」の展開

## ○ふるさとの未来と自らの将来を思い描く力の育成

- ・「地域の未来」を構想し、自分の将来を選び取る「ふるさと教育」の充実
- ・「地元就職・地元進学」の意識を高め、ふくいで働き暮らすことの価値を見いだす「ライフデザイン教育」の推進

## ○幼小中高大のトータル教育の推進

- ・人格形成の基礎を培う幼児教育の更なる充実、小中高の連携・接続強化
- ・高校において、県内大学・企業・団体と連携した探究的な学習を拡充

## ふるさと教育

資料3

～ふるさと福井への誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる～

## 先人に学ぶ

## ◆ふるさと福井の先人100人

中学校の道徳や高等学校のホームルーム等で、直面した苦難等を乗り越えてきた先人の生き方や考え方を学習する。

## ◆古典学習

古典音読・暗唱ノート、百人一首カード、故事成語カードなどを使い、福井にゆかりのある人物の作品や福井の土地でつくられた作品を学習する。

→ 小学校3～6年生・中学校1～3年生が、朝の活動や授業等で活用

## ◆図書学校巡回子ども読書

教師や司書が薦めるふるさと文学、古典や名作などを県立図書館から県内の全小中学校に巡回させる。

## ◆白川文字学を活用した漢字学習

平成23年度から全小中学校で漢字教育に活用。白川博士没後10年を記念し、書斎の復元展示など「白川文字学の室」をリニューアル立命館大学と連携したフォーラム開催など、全国の研究者等とのネットワークを強化

## 地域に学ぶ

## ◆地域と進める体験活動

地域行事やまちづくり等について、地域の人々と連携し、児童・生徒が自らの地域に愛着を持ち、課題等を改善するよう企画・提案する体験学習を行う。

○福井型コミュニティ・スクールを進化させた子どもたちの主体的な体験活動

○モデル校28校を指定(H28)

→ H30: 258校(全小中学校)で実施

○学校と地域、企業などの橋渡しを行う「地域コーディネーター」を学校長が推薦し、市町教育委員会が委嘱

※ 自然体験施設等での宿泊を伴う活動など、体験活動の幅を広げる施策についても、今後検討が必要

## ふるさとのキャリア教育

## ◆ふるさと先生

本県ゆかりの企業経営者等の「ふるさと先生」が、高等学校22校で夢や希望を育て未来を築くための授業を実施する。

→ 15名をふるさと先生に委嘱

## ◆高校生県内企業訪問

普通科系17校の高校1年生が、ふるさと福井の職業および企業に関する調査を通して、どのような社会貢献をしているのか理解を深めるために企業訪問を実施

※ライフプラン・・・地元企業での職場見学や職場体験学習、ふるさとに誇りを持ち、地域や自分の将来を考える希望学、ふるさと福井の仕事や子育て、暮らしやすさなどを学ぶライフプラン学習等を行う。(小・中・高等学校)

※芸術教育・・・ヴァイオリンをはじめとする福井出身の音楽家・芸術家による指導等を受けたり、越前和紙を活用した日本画を描いたりする。(小・中・高等学校)

## なぜ、育児休業を取得する必要があるの？

- ・パートナーである性側に偏りがちな育児や家事の負担を夫婦で分かち合うことで、女性の出産意欲や継続就業の促進、社会全体の働き方改革につながり、「産後うつ」の予防にも有効です。
- ・また、「ふく育県」を宣言する福井県の教職員が、全国トップクラスとなる育児・家事に参加しやすい職場づくりを推進することにより、福井県における教職員を志す人材の確保等にもつながりやすくなります。

「男性教職員のための育児休業取得の手引き 令和6年6月改訂 福井県教育委員会」からの抜粋